第3回設楽ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場

日時：平成23年5月12日 15:30～17:00

場所：駅前文化ホール（開発ビル10階）

【事務局】 お待たせしております。15時半からの開始予定でございますが、少し早いのでございますが、構成員の方が皆さんおそろいになられましたので、ただいまから第3回設楽ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場を開催させていただきたいと思っております。

この場の司会を務めさせていただきます、私、中部地方整備局の山内と申します。どうかよろしく願いいたします。

会議に先立ちまして、本日の検討の場の運営に関しまして、若干のお願い事、注意事項を申し上げさせていただきます。

報道の関係の皆様にはお願いでございますが、カメラ等の撮影は、会場の運営の関係で、私どもの局長のあいさつまでとさせていただきますと思います。

また、報道の関係機関の皆様及び一般傍聴者の皆様には、受付のほうで配付させていただきましたこの場の傍聴に当たってのお願いというペーパーがございますが、これをご覧いただきまして、会議の進行にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

それから、このホール内での飲食というのは禁止されているようでございますので、どうかその面もご協力のほうをよろしくお願いいたします。

それでは、まず、検討の場の主催者でございます中部地方整備局長、富田英治より、最初のごあいさつをさせていただきます。局長、お願いいたします。

【中部地方整備局長（富田英治）】 中部地方整備局長の富田でございます。本日は、第3回の設楽ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

ご承知のとおり、3月11日に東日本大震災が発生いたしまして、東北地方を中心に大変多くの方々が被災をされたわけでございます。亡くなられた方々のご冥福と、そして、一日も早い復興をお祈りする次第でございます。

私ども中部地方整備局といたしましても、発災直後、まさに3月11日の午後の4時ごろですが、防災ヘリコプターで職員を乗せて先遣隊というものを派遣いたしました。また、

同日の夜には、緊急災害派遣隊、いわゆるTEC—FORCEでございますが、これを現地に派遣いたしました。現在までに、延べ人数で申し上げますと2,481人日の職員を派遣して、東北の支援活動を行っている、こういう次第でございます。また、私どもの地方整備局で保有しております衛星通信車でございますとか照明車、そして排水ポンプ車、こういった災害対策車両につきましても、合計で23台を被災地へ派遣してございます。

こういったこともございまして、本日の検討の場の開催も少し遅れることになりました。皆様方には大変ご心配をおかけいたしました。申し訳ございませんでした。

ところで、この検証作業でございますけれども、治水に関しましては、豊川の整備計画で目標としてございます戦後最大洪水の防御、これを目標として、前回までにさまざまな対策案をお示しいたしまして、構成員の皆様からいろいろなご意見をいただいたわけでございます。

また、新規利水と、それから流水の正常な機能の維持に関しましても、一定の目標量に對しまして同様な検討を行いまして、ご意見をいただきました。

その後、約1カ月にわたりましてパブリックコメントを実施いたしました。このパブリックコメントでは、延べ209名の方から約670件のご意見をいただくことができました。

本日の検討の場では、パブリックコメントによりいただきましたご意見をご紹介しますとともに、概略評価により対策案の抽出を行う予定でございます。構成員の皆様方にはさまざまなご意見をこれまでもいただいているところでございますが、引き続き忌憚のないご意見をいただければと思っております。どうかよろしく願いをいたします。

お忙しいところ貴重なお時間をいただき、まことに申し訳ございませんが、ぜひともご協力のほどをお願い申し上げます。

簡単でございますが、冒頭のごあいさつとさせていただきます。よろしく願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります前に、構成員の皆様の変更というか、お替わりになられた構成員の方がおられますので、お知らせします。

今回より、愛知県のご担当副知事が永田清東三河担当副知事となりましたので、お知らせします。ここで永田副知事のほうから一言ごあいさつただけでしたら、よろしく願いいたします。

【愛知県副知事（永田清）】 ご紹介いただきました永田でございます。この4月1日付で副知事に就任いたしました。

設楽ダムは愛知県にとりまして、とりわけこの東三河地域にとりまして、極めて重要な課題でございます。そこで、大村知事からの指示によりまして、今後、この検討の場におきましては、東三河担当副知事の私が出席をさせていただくということになりました。どうかよろしくお願いいたします。

【事務局】 永田副知事、ありがとうございました。

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。今後のこれからの進行は、河川部長の山根尚之が務めさせていただきます。それでは、部長、よろしくお願いいたします。

【進行役（河川部長）】 河川部長の山根でございます。

それでは、お手元の議事に沿って進行させていただきたいと思います。

まず、3番目の検証に係る検討の進め方について、事務局から説明をお願いいたします。

ご質問につきましては、各区切りごとにお伺いをいたしたいと思っておりますが、また最後にも全体的にお伺いをさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【事務局】 私、河川計画課長をしております井樋と申します。座って説明させていただきます。

配付資料につきましては、資料一覧にあるとおりとなっております。不足等がございましたら、事務局のほうへお申しつけいただきたいと思います。

それでは、幾つか資料をめぐっていただきまして、まず、資料—1の検証に係る検討の進め方についてご説明させていただきます。

このフローにつきましてはこれまでの検討の場でも何度かお示しさせていただいているところですが、検証の進め方のフローということで、まず、赤線に囲った部分、こちらを本検討の場で構成員の皆様にご説明して、ご見解をお聞きする対象のメニューということになっております。

今回の検討の場につきましては、青線で囲った部分、ここの真ん中のところのクの部分、概略評価により治水対策案を抽出ということを行うことにしております。設楽ダムにつきましては、治水、それから利水、流水の正常な機能の維持の3つの目的があるということで、その3つの目的別に概略評価をやっているということでございます。

第2回の検討の場でご提示、それからご説明させていただきました治水、利水、流水の

正常な機能の維持の複数の対策案を、概略評価によりまして、2から5案程度に抽出しております。今回の検討の場では、これからその概略評価の過程、結果についてご説明をさせていただきますようお願いしております。

本日は、まず、概略評価の過程、結果の説明の前に、複数の対策案に対して、構成員の皆様方、それから一般の方々からいただいたご意見についてご紹介していこうと思っております。

以上でございます。

【進行役（河川部長）】 ただいまの説明につきまして、何かご質問、ご意見等はございますか。それでは、次に4番目の議題でございます。いただいたご意見の紹介について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 それでは、引き続きご説明させていただきます。

資料—2をごらんください。

まず、ページを開いていただきまして、構成員からいただいたご意見という1ページ目をご覧くださいと思います。

第2回の検討の場で提示させていただきました治水、利水、流水の正常な機能の維持の複数の対策案につきまして、検討の場の構成員であります愛知県、それから流域、受益の6市町の皆様からご意見をいただいたというところでございますので、それについてご紹介をさせていただきますと思っております。

概略評価によりまして対策案を抽出する際に参考としたご意見につきましては、青字にさせていただきます。本日、この後、説明をしますが、概略評価の資料のほうにも同じように記載をさせていただいているというところでございます。

主立ったところをご紹介しますと、まず、愛知県のご意見ですが、検討の場においていただいたご意見というところの4つ目のポツですか、複数の対策案の中には、生活環境の変化やかなりの優良農地の潰廃もありまして、住環境において大きな影響があると思われるため、そうしたことを十分考慮した評価をお願いしたいというご意見。

それから、一番最後のポツですけれども、ため池を今後3,000個もつくる案というのは、貯水の可能性とかそんな場所があるのかといった技術的な実現性、膨大な用地を必要とすることに伴い、住環境にも大きな影響を及ぼすということを十分踏まえた抽出をお願いしたいといったご意見です。

それから、後日追加でいただいたご意見の中では、一番下のところですが、豊川

水系は集水域が狭く、流域面積よりも広い範囲に供給しているということで、宇連・大島ダム等の水源施設のほかに、やむを得ず他水系からの導水、調節池等の整備、また、取水口の合口を計画的に進めるなど、限られた水の有効活用の徹底を図っているというところで、フルプランにも位置づけられているように、将来にわたる安定的な用水供給確保のため設楽ダムに新規利水を求めたということで、既開発済みの豊川用水の合理化はあり得ないといったようなご意見をいただいております。

次のページでございます。2ページ目でございます。豊橋市からいただいたご意見でございます。

検討の場においていただいたご意見というところで、まず、1つ目のポツですけれども、浸水で大変悩んでいる霞地区の方々がいるという現実があるんだというご意見。ピロティー建築にすれば浸からないだとか、輪中にすれば大丈夫だといっても、浸かっている間に地域間が分断されたり、ピロティー建築は高齢者にとって暮らしにくい家という場合があります。やはりその地域で暮らしている方のことを踏まえた検討をすべきであるというご意見をいただいています。

次に、3つ目のところですが、既得水利の合理化、転用対策案は、老朽化などの対策はもう図られているというところで、もう効率化する面がないと。必要流量についても適切に審査されているので、実現性というのはあまり感じられないといったようなご意見をいただいています。

次に、3ページ目を見ていただきたいと思います。豊川市からいただいたご意見でございます。

検討の場においていただいたご意見というところの3つ目のポツを見ていただければと思います。ダム以外の河道を対象とした案では、豊川へ流れる小さな支川の能力が十分でないということで、排水がなかなかできないという現実がありますというご意見。今までも数多くの浸水被害が発生しているということで、小さな支川対策も必要であると。特に、堤防のかさ上げ案では、合流している支川の内水氾濫が大きくなるというようなご意見をいただいています。

もう一つ、後日追加でいただいたご意見のところの下から3つ目のところを見ていただきますと、対策案③の水系間導水、天竜川についてですが、濁水というのは広範囲に影響することが想定されるというご意見。天竜川の取水制限は近年においても多く発生している状況を見れば、当該河川だけの都合で、余裕のあるときに限りという制約での条件では、

豊川水系への導水は必要量を確実に確保できる保障がないといったようなご意見をいただいています。

4 ページ目でございます。田原市からいただいたご意見でございます。

こちらについては、後日追加でいただいたご意見のところの真ん中、4 つ目のところを見ていただきますと、調整池、ため池の整備は東三河地域の優良農地を減らすことにつながると。食料自給率の向上に逆行することになるのではないかというご意見。

それから、次のポツの宇連・大島ダムのかさ上げにつきましては、両者は流域が狭いということで、安定的な水量の確保という観点からは適当ではないといったご意見。

次に、蒲郡市からいただいたご意見ですけれども、後日いただいたご意見の中では、長い年月をかけて行われた議論では、今回示されている対策案等についても当然議論がなされていると。それでもなお設楽ダムも建設することが妥当であるとの判断が下されたと。第1回の検討の場でも述べさせていただいたように、早期に検証作業を終えて予定どおり設楽ダムを完成させ、東三河地域の安全・安心に配慮していただきたいといったご意見をいただいております。

最後に、設楽町からいただいたご意見ですけれども、検討の場においていただいたご意見というところで、一番下のポツですけれども、40年近くの歳月を費やして設楽ダム着工となったと。設楽町の水没住民の方々の苦渋の決断の結果をよく考えてほしいといったようなご意見をいただいております。

以上が、構成員の皆様方からいただいたご意見をまとめたものでございます。

次に、資料—3に入らせていただきます。

意見募集の概要及び結果についてということで、1 ページ目でございますけれども、同じように第2回の検討の場でお示した複数の対策案に対しまして、2月17日から3月18日の1カ月間の間、パブリックコメントを実施しまして、広く一般の方々からもご意見をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

概要としましては、延べ209名の方から合計で約670程度のご意見をいただいております。大まかな内訳といたしまして、新たな対策案に関するご意見、検討主体からご提示させていただいた対策案に対するご意見、それからダム検証に関するご意見等がございました。

次のページを開いてください。2 ページ目でございます。

「意見募集の概要及び結果について（参考）」と書いてある資料を見ていただくとわかり

ますが、8割近くが愛知県にお住まいの方からのご意見をいただいています。その中でも、豊川が流れる地元東三河の地域からの方々のご意見が多くあったということでございます。

3ページ目を見ていただきたいと思います。

それでは、パブリックコメントでいただいた主なご意見について紹介させていただきたいと思います。

まず、新たな対策案の提案について、パブリックコメントでご意見としていただいております。第2回の検討の場で検討主体のほうからご説明させていただいた対策案のほかに、パブリックコメントでさらに新たな対策案の提案ということで、それについてちょっとご紹介させていただきたいと思います。

治水対策案、それから利水、流水の正常な機能の維持対策案のそれぞれでいただいた対策案をすべて記載させていただいております。まず、治水に関しましては、一番上のところの山の地下に貯留空間を設けるといった案、それから、2つ目の牟呂松原頭首工から国道151号の地下を經由した放水路を設ける、3つ目の放水路の能力アップといったようなご意見をいただいております。

次に、利水、流水の正常な機能の維持につきましては、木曾川水系からの導水ですとか、天竜川・矢作川水系の両方からの導水といったようなご意見をいただいているというところでございます。

次に、4ページ目を開いていただきたいと思います。

こちらは治水対策案に対するご意見ということで、それについてご紹介させていただきたいと思います。

事務局のほうで、治水対策案について項目別に分類しましてご紹介したいと思っております。まず、この青字で書いてある部分、例えば、この4ページでいえば「現計画に対してのご意見」と、こういったくくりで幾つかピックアップしてご紹介をしていきたいというふうに思っています。

まず、現計画に対してのご意見ですけれども、1つ目のところですが、ダム等の巨大人工構造物に依存する河川政策から脱却して、氾濫許容型の治水へと転換すべきであるといったようなご意見、3つ目のところですか、ダム建設を白紙に戻して、堤防の弱い部分の補強、それから河床の掘り下げで対応してください、大野頭首工に貯留している土砂は速やかに下流に流下させてくださいといったご意見、一番最後を見ていただきますと、治水、利水、環境の総合的な視点から長年地域において議論された、合意形成が図られた現計画

が、最も実現可能性があり、合理的であるといったようなご意見をいただいております。

次に、5ページ目でございます。

これは、対策案の中で河道処理に対してのご意見ということでございます。

主な意見としてご紹介しますと、一番下のところですが、河道を掘削する案につきましては、大量の掘削残土をどうするか、処分の問題があるというご意見。180万立方メートルというボリュームは、かなりの経費と、搬出のための地域内の交通の輻輳は地域生活へ与える影響が非常に大きいというようなご意見をいただいているところです。

次に、引堤、堤防のかさ上げに対してのご意見というところでご紹介しますと、1点目ですけれども、引き堤とか堤防のかさ上げにつきましては、多大な土地の取得、家屋移転が伴うとともに、超過洪水により破堤したときの被害リスクが大きくなる、社会的影響が大きいといったようなご意見をいただいています。

次に、6ページ目をご紹介させていただきたいと思います。

流域対策に対してのご意見というところでご紹介しますと、例えば上から2つ目のところを見ていただきますと、⑬水田保全案がありますが、地域農業保全の観点から有効案と思いますが、今後の高齢化進展を考えると、土地所有者の理解と管理への支援方策の連携が重要と考えますといったご意見。

次に、ダムの有効活用に対してのご意見というところで、これについては下から2番目を見ていただきますと、ダムのかさ上げを含む対策はダムに頼ることに変わりはなく、もともとの考え方に反するといったようなご意見をいただいています。

7ページ目でございます。

計画遊水地を整備する案に対してのご意見というところでございます。

これは上から5番目のものを紹介したいと思います。施設対応が可能な地域は流域の中流域から下流域が大部と考えられまして、山間部の流出量に対応できるのは少ないものと考えられますというご意見。また、降雨の初期、中期までに貯留及び浸透能が満杯になる可能性が大きいということで、大きな出水に対しての効果は見込めないのではないかとご意見でございます。

最後に、全般的なご意見というところで、どの対策案も、直接、間接に影響を受ける住民等、多数の関係者を今後新たに巻き込むといったご意見、それから、いずれの案も、ダム建設を進めるために意図的に過大の計画として経費を算出しているといったようなご意見をいただいているということでございます。

次に、8ページ目でございます。

これは、利水対策案に対するご意見でございます。

まず、1点目、現計画に対してのご意見というところでございますけれども、一番下のところを見ていただくと、大雨とか渇水のための準備をやることはやっておくことは大切ですが、ダム建設というやり方は山間地に暮らす人々を苦しめるやり方であり、納得できませんといったご意見。

それから、河道外貯留施設、ため池に対してのご意見ということでいえば、真ん中の調整池とかため池について、これだけ多くの施設をつくる土地はないといったようなご指摘。

3つ目、ダムの再開発に対してのご意見というところでは、3つ目のところで、既存ダムのかさ上げは、工事中のダム機能がゼロになるといったようなご指摘を受けております。

9ページ目でございます。

水系間導水に対してのご意見というところでございます。

上から3つ目ですけれども、対策案の4、これは水系間導水の矢作川の導水ですけれども、これには反対ですと。水利者にとってこれほど不快な案はありませんといったようなご意見。

それから、地下水取水に対してのご意見というところでは、上から2つ目、地盤沈下のおそれが生じ、恒久対策とはならないのではないかと。

海水淡水化に対してのご意見については、コストがかかり過ぎて理解を得られないのではないかと。

それから、既得水利の合理化、転用に対してのご意見については、過去の歴史とか経緯を考えると、複雑で調整が困難なのではないかというようなご指摘をいただいております。

次に、10ページ目からが、3つ目の目的であります流水の正常な機能の維持対策に対するご意見ということでいただいております。

現計画に対してのご意見につきましては、上から2つ目を紹介しますと、大雨や渇水のための準備をやることはやっておくことは大切なんですけれども、ダム建設というやり方は山間地に暮らす人々を苦しめるやり方であり納得できない。

それから、2つ目の河道外貯留施設、ため池に対してのご意見ということでいうと、下から2つ目を見ていただきますと、用水の確保とか水のネットワーク構築の上で現実的ではないと。

それから、ダム再開発に対してのご意見については、膨大なコストがかかること、ダム

強度の確認とか、周辺環境には多大な影響を及ぼすことなどが懸念されるといったようなことをご意見としていただいております。

11ページ目でございます。

水系間導水に対してのご意見ということで、一番上を見ていただきますと、豊川のことは豊川で対処すべきと。ほかへのツケを回すことは解決にならない。

それから、地下水取水に対してのご意見、一番上で、適当な量の利用はいいと。

それから、既得水利の合理化、転用についてのご意見については、2つ目のところを見ていただきますと、ダムの運用、維持放流が合理的、弾力的に実行できるようなルールづくりが必要であるといったようなご意見をいただいております。

次に、12ページ目でございます。

評価軸に関するご意見ということで、今後、評価をしていく中で、その評価軸についてのご意見をいただいたわけですが、こちらについてもご紹介させていただきます。

まず、1つ目、環境保全について考慮していただきたいというご意見、それから、地域産業に与える負荷を考慮すべきといったようなご意見、事業進展度及び完成までの期間の評価の項目が必要といったようなご意見をいただいております。

これが主なご意見の紹介になります。なお、構成員の皆様方のところには、分厚いこの資料、意見募集でいただいた意見及びいただいたご意見に対する考え方というものをお配りさせていただいております。こちらにつきまして、すべてのご意見に対しまして一つ一つ、我々、検討主体のほうから回答をつけてお配りさせていただいております、これにつきましては、中部整備局のホームページに本日中に掲載させていただく予定とさせていただいております。なお、それに加えて、豊橋河川事務所、それから設楽ダム工事事務所でも閲覧できるようにという形で公表させていただきたいと思っております。

次に、13ページを見ていただきたいと思えます。

先ほど紹介しました新たな対策案の提案の中から、概略評価を行うに当たりまして、対策案として追加する案についてご紹介したいと思います。これにつきましては次の説明資料で説明しますので簡単に説明しますと、治水では3つの案があります。利水、流水の正常な機能の維持では4個の案について新たな対策案として加えて、概略検討をするということで整理をしております。

ちょっと長くなりましたが、説明は以上でございます。

【進行役（河川部長）】 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございまし

たら。それでは、また後ほど、何かございましたらご意見を賜ればと思います。

それでは、次に、議事の5番目でございますが、パブリックコメントを踏まえた新たな対策案の立案について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 それでは、資料—4、パブリックコメントを踏まえた新たな対策案の立案についてという資料をご覧ください。

まず、1ページ目でございます。

第2回の検討の場におきまして、設楽ダムに代わる24の治水対策案をご提示させていただきました。パブリックコメントにおきまして、新たな対策案につきましてご意見を伺ったところ、先ほどご紹介したとおり、3つのご提案をいただいたということでございます。

まず、1つ目が国道151号線の下に放水路を設置して海に流すという案、2つ目が豊川放水路の能力アップ、3つ目が、山の地下部を掘削することにより、地下空間、地下ダムを設置する案という、以上の3つの案になっております。

このほかに、決壊しない堤防、決壊しづらい堤防についてのご意見というのがありましたが、こちらにつきましては、技術上の観点から実現性の見通し等を考慮して、検討から除かせてもらっているというところでございます。

この3案につきましては参考とさせていただきます、治水対策案を、24に3つを加えて27案ということで概略評価を行っていくことにしたいと考えています。

2ページ目、3ページ目でございますが、この2つにつきましては、前回お示ししております治水対策案の一覧表ということで、3案を追加したということです。見ていただきますと、今回追加した案ということで赤く囲っている部分として、3案が見えていただけると思います。

これはA3で大き目の資料を皆様にお配りしていますので、それを見ていただくといいかなと思います。まず、河道で流す案ということで、治水対策案25、地下放水路案、それから治水対策案26、豊川放水路改築案というのを追加しています。次に、3ページを見ていただきますと、流域にできるだけ貯留する案ということで、治水対策案の27の地下ダム案というのを追加しております。

3つの新たな対策案につきまして、概要を個別に説明させていただきたいと思います。

では、次のページをご覧ください。4ページ目でございます。

地下放水路を国道151号の下に設置しまして、洪水の一部を分流させて三河湾へ排水

する案ということになっております。豊川の特徴でもあります各霞堤地区の取り扱いは、整備計画と同じという扱いにしております。総概算コストにつきましては約5,200億円、工期は地質調査等を行っていないので不確定ということで整理しております。

次のページをご覧ください。5ページ目でございます。

対策案26というところで、豊川放水路を掘削しまして分流機能を向上させる案となっております。ただし、分派施設の改築が必要となるということでございます。豊川の放水路上流では、私どもとして提案しています治水対策案2というものがありますが、これと同様の河道掘削が必要となってくるということとなります。この案は、河道掘削等をいっぱいやるというような案になっています。このため、対策案26についても、整備計画の約5倍の掘削が必要となります。

各霞堤の地区の取り扱いは、整備計画と同じとしております。総概算コストは約1,200億円、工期は約30年ということでございます。

次のページをご覧ください。

治水対策案の27ということで、山間部の地下にダム空間を設置する案ということでございます。設楽ダムの治水容量1,900万トンの規模の地下トンネルをつくるということでございます。直径15メートルのトンネルとして換算させていただきますと、総延長が240キロメートルということで、工事に伴う地下水位の低下というのが懸念されます。霞堤の取り扱いについては整備計画と同じになっています。総概算コストにつきましては約8,200億円、工期は、地質調査等を行っていないため、掘削推進量が不明でありまして不確定ということでございます。

以上が、治水の新たな対策案ということでございます。

次に、7ページ目をご覧ください。

続きまして、利水、それから流水の正常な機能の維持の対策案についてご説明させていただきます。

第2回の検討の場におきまして、利水対策案につきましては14、それから、流水の正常な機能の維持の対策案につきましては12の案について提示をさせていただきました。パブリックコメントにおいて、新たな対策案についてご意見を伺ったところ、新たな対策案についてご提案をいただいたということで、まず、利水対策案といたしまして、1つ目が、治水でもありましたけれども、地下に貯留空間をつくる案、2つ目が木曾川流域から導水する案、3つ目が天竜川と矢作川から同時に導水する案、以上の3案となっております。

す。

次に、流水の正常な機能の維持対策案につきましては、今ご説明しました利水対策案の3案に加えまして、4つ目ということで旧東上霞に貯留施設をつくる案というのをいただきまして、全部で4案ということになっております。

この4案については参考とさせていただきます、利水対策案を17案、それから、流水の正常な機能の維持対策案を16案ということで、概略評価を行っていくということになっています。

8ページ目、9ページ目、これは大きいA3の資料があると思いますけれども、一覧表でございます。17の地下貯留施設、それから、18の木曾川からの導水案、19の天竜川と木曾川の両方から導水する3案を追加しているという状況でございます。

次に、裏、9ページ目ですけれども、流水の正常な機能の維持の一覧表です。17から20の4案を、新たな提案ということで追加しております。

それでは、10ページ目以降、追加の対策案を個々にご説明させていただきます。

まず、対策案17でございます。治水のほうでもありましたが、山間部の地下にダム空間を設置する案ということで、設楽ダムの容量に対し同規模の地下トンネルを設置する。直径15メートルのトンネルとして換算いたしますと、利水容量で170キロ、不特定容量で770キロということで、工事に伴う地下水位の低下が課題となる。総概算コストにつきましては、利水の場合は約4,700億円、不特定容量の場合は約2兆1,600億円ということでございます。工期は関係者調整を伴うということで不確定ということで整理しております。

次に行かせていただきたいと思っております。11ページ目でございます。

対策案18でございます。木曾川から新規に導水をやるということで必要量を確保するというところでございます。木曾川につきましては近年20年間に14回の取水制限が発生しているということで、新規に導水するには木曾川の関係河川使用者等との調整が必要になってくると。総概算コスト、工期ともに、関係者調整があるということで不確定という整理で挙げさせてもらっております。

次のページをご覧ください。12ページ目でございます。

対策案19でございます。こちらは、天竜川より新規に導水を実施することによって必要量を確保する案となっております。天竜川につきましては近年20年間で11回、矢作川でも20年間のうち11回ということで取水制限が発生しているということで、新規に

導水するには、天竜川、矢作川、それぞれの関係河川使用者等との調整が必要ということで、総概算コスト、工期ともに関係者の調整を伴うということで不確定という整理をしております。

次に、13ページでございます。

追加の対策案の20ということで、この案につきましては、旧東上霞地区、こちらにつきまして、これを掘削して容量を確保するという案でございます。流水の正常な機能の維持対策案ということで、パブリックコメントでいただいたということで検討をやってみました。この結果、旧東上霞地区で確保できる容量というのは、整備計画で目標としている流水の正常な機能の維持の必要量を確保できないということがわかりました。

以上が新たな対策案についての説明ということで、以上でございます。

【進行役（河川部長）】 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、次に議事次第の6でございますが、概略評価による治水対策案の抽出について、また、7の概略評価による利水及び流水の正常な機能の維持対策案の抽出について、2つにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、続きまして資料—5のほうを見ていただきたいと思います。概略評価による治水対策案の抽出についてご説明させていただきたいと思います。

まず、めくっていただきまして1ページ目でございます。

この資料は、有識者会議におけます中間取りまとめで示されている、別紙5というペーパーになっております。今回、第2回の検討の場で提示させていただきました24の対策案に加えて、パブリックコメントでいただいた新たな対策案3案を立案して、27の対策案を立案したということになっております。

多くの治水対策案を立案した場合というときには、概略評価を行うことによりまして、明らかに不相当と考えられる案を棄却するというですとか、同類の対策案の中から最も妥当な案を代表化することによりまして、2から5案を抽出することとなっております。

次のページをご覧ください。

概略評価による治水対策案の棄却、それから代表化についてご説明をさせていただきたいと思っております。

先ほどご説明しました別紙5に示されております安全度、コスト、実現性につきまして、

まず、不適当な案を棄却するということをごさいます。コストにつきましては、現計画と比較しまして極めて高いものを棄却いたします。治水対策案の代表化につきましては、パブリックコメントで提案のありました新たな対策案3案を追加した上で、同類の治水対策案をグループ化しまして、最も妥当な案を代表化するということをごさいます。グループにつきましては、河道を処理する案、それから堤防を整備する案、流域対策を実施する案、ダムの有効活用をする案、計画遊水地等の貯留施設を整備する案に分類しまして、5グループということにさせていただきたいと思ひます。

次のページでござひます。3ページです。27案を5つのグループに分けて一覧とした表がこちらになります。

それでは、グループごとに、代表化についてご説明させていただきたいと思ひます。

4ページ目をご覧ください。

まず、現計画でござひます。こちらにつきましては、実現性のところにもちょっと記載しておりますが、建設合意ですとか損失補償の妥結、これが既に終わっておりまして、制度上の問題はありません。パブリックコメントにつきましては、40年近くの歳月を費やした地元住民の苦渋の決断であり、早期に完成してほしい、それから、ダムをつくる必要はないなど、さまざまなご意見をいただいております。今後、これらの意見を踏まえて、できる限り詳細な検討を実施していきたいと思っております。

次のページでござひます。5ページ目をご覧ください。

グループ1、河道処理を対策案としているグループでござひます。

安全度につきましては、治水対策案の1、こちらは設楽ダムがなくて河道掘削、それから4霞堤の存置ということですのでけれども、牛川霞堤につきましては、下流からの河川の改修が進んでいるということで、締め切っても弊害が発生しないという現状がござひまして、洪水貯留効果というのは極めて小さいと見込まれます。牛川の霞堤を存置した場合、牛川の霞堤地区の浸水頻度というのは整備計画よりも増加してしまうという課題があります。

その他の治水対策案の2、3、4、10、25、26、これにつきましては、安全度と実現性というところにつきましては、不適当な案はありません。ただし、新たに追加された治水対策案25ですが、こちらにつきましては、現計画に比べてコストが極めて高いということがわかりましたので、これは棄却させていただくことをごさいます。

パブリックコメントでいただいたご意見を紹介しますと、掘削残土を運搬するダンプが数分ごとに市街地を通過して、市民生活、産業活動への影響が大きく、大量の土砂処理が

課題ですというご意見。それから、河道掘削、樹木群の伐採というのは、河川整備計画でうたわれている河道内樹木群の保全という目標について十分配慮してほしいなどのさまざまなご意見をいただいております。

捷水路、それから輪中堤、ピロティー建築等を含む案というのは、地域の分断ですとか洪水時の孤立といった問題が懸念されること、それから、牛川霞堤の貯留効果が小さいというようなことを考慮しまして、コストで優位であります治水対策案の2番目と26番目、これは赤く四角で囲っておりますけれども、こちらの2つを抽出します。これらにつきまして、できる限り詳細な検討をやっていくということでございます。

次に、6ページ目でございます。

グループの2、堤防の整備を対策案としているグループでございます。

安全度と実現性という観点から不適切な案というのではないと考えております。

パブリックコメントでのご意見をご紹介しますと、多大な土地の取得、家屋移転が伴うとともに、超過洪水により破堤した場合の被害のリスクが増えるというご意見、それから、優良農地に対する用地買収というのは地権者の同意が困難ではないかというご意見、あと、決壊しない、決壊しづらい堤防を検証の対象に加えるべき等のさまざまなご意見をいただいております。

輪中堤、それからピロティー建築等を含む案につきましては、先ほど申しました地域の分断ですとか洪水時の孤立といった問題が懸念されることを考慮したいと思っております。これらの特徴を踏まえた上で、コストで優位であるということで、治水対策案の5番目、こちらを抽出して、今後できる限り詳細な検討を実施したいということで整理をしております。

続きまして、7ページ目でございます。

グループの3、流域対策を対策案としているグループです。

こちらにつきましても、安全度、実現性については不適切な案はないというふうに考えております。

パブリックコメントでのご意見をご紹介しますと、雨水貯留・浸透施設は洪水ピーク時の低減に効果があるのか、それから、水田所有者の高齢化の進展を考慮して支援策が必要ではないか、公共施設の敷地を使った貯留施設を各所に設置してはどうかなどのさまざまなご意見をいただいております。

雨水貯留、雨水浸透と比較いたしまして、水田保全のほうは流域の上流から下流にかけ

て広く分布し、より多くの雨水を一時的に貯留できることにより、河道掘削量を減らせるといったようなことを考慮して、コストで優位であります治水対策案のナンバー13でございますけれども、こちらを抽出いたしまして、今後できる限り詳細な検討を実施していくということで考えております。

次に、8ページ目でございます。

グループ4、ダムの有効活用を対策案としているグループです。

同じように、安全度、実現性については不適當な案はないと考えております。

パブリックコメントでのご意見をご紹介しますと、ダムの再開発というのは膨大なコストがかかり、周辺環境に多大な影響を及ぼすことが懸念されるというご意見、環境影響評価を新たに実施すべきというご意見、既設ダムによる分散は洪水のリスクが少ないというご意見など、さまざまなご意見をいただきました。

輪中堤、それからピロティー建築等を含む案というのは、地域の分断ですとか洪水時の孤立といった問題が懸念されます。それから、引堤を含む案は家屋移転も必要になります。これらの特徴を踏まえた上で、こちらもコストで優位である治水対策案のナンバー16、こちらを抽出して、詳細な検討をやっていくということで考えております。

最後でございます。9ページ目でございます。

グループ5、計画遊水地等の貯留施設の整備を対策案としているグループでございます。

同じように、安全度、実現性について不適當な案はないと考えております。ただし、治水対策案の27でございます、こちらは地下ダム、新たにパブリックコメントで追加した案になってはございますけれども、コストが現計画に比べてかなり高いというところで、これは棄却をさせていただきたいというふうに思っております。

パブリックコメントでは、降雨の初期、それから中期までに貯留が満杯となる可能性が大きくて、大きな出水に対しての効果は見込めないのではないかというご意見、それから、優良農地の維持、保全が損なわれることによる農業振興への影響を十分に踏まえる必要があるのではないかというご意見、東上地区の霞堤設置は地域の崩壊を招くなど、さまざまなご意見をいただいております。

地域分断等の懸念事項は存在するものの、コストで優位というところでありまして治水対策案の23、これを抽出して、今後、できる限り詳細な検討をやっていきたいと考えております。

次のページをご覧ください。

こちらの資料が、27案を5つのグループに分けて、概略評価によりまして7つの案を抽出した結果を一覧としたものです。今後は、この二重丸のついた7つの案についてできる限り詳細な検討を行いまして、総合評価を実施していくということになります。

次のページをご覧ください。11ページ目でございます。

これもA3で大きなものをお配りしております。2回目でもお配りしたかと思えますけれども、評価軸と評価の考え方ということについてご説明します。

ただいまご説明しました7案の治水対策案につきまして、今後、ここが一番左のところを書いてありますけれども、安全度、コスト、実現性など7つの項目について詳細検討を行って行って、評価軸ごとに総合的な評価を実施していくということでございます。

以上で、概略評価による治水の対策案の抽出についての説明を終わります。

【事務局】 続きまして、概略評価による利水及び流水の正常な機能の維持対策案の抽出について、河川環境課の水谷でございます、説明させていただきます。

資料一6でございます。1ページ目をご覧ください。

先ほど治水のほうからも説明がございましたとおり、利水と流水の正常な機能の維持につきましても、今回の概略評価で複数の対策案を2から5案程度抽出しております。

2ページをご覧ください。

まずは、利水対策案でございます。対策案の棄却の方針ですが、目標として、愛知県さんより確認した必要な開発量が確保できないもの、現計画と比較して極めてコストの高いもの、実現性が極めて低い案について棄却する方針でございます。

2から5案の抽出の方針でございますが、前回提示した複数の対策案と、パブリックコメントでいただいた新たな対策案について、代表的な方策別にグループ化を図っております。現計画案に加え1から6のグループ分けになっております。

グループの1につきましては、河道外貯留施設、ため池等、ダム以外の池を設置するグループ。グループ2としまして、既設ダムの再開発を主に実施するグループ。グループ3としまして、他の水系から水を導水するグループ。グループ4としまして、井戸の新設等による地下水を取水するグループ。グループ5としまして、海水淡水化を主に実施するグループ。グループ6としまして、既得水利の合理化、転用を実施するグループ。以上のグループに分けて、各グループ内で最も妥当な案を抽出いたします。

3ページをご覧ください。

先ほど説明しました各グループを一覧表にしたものでございます。表の一番上の対策案

のナンバー、名称欄にあります現計画案からナンバー16までが、前回提示致しました複数の利水対策案でございます。右端の17、18、19の案が、パブリックコメントでいただいた新たな対策案ということになっております。

次のページの4ページからが、利水対策案の棄却、抽出をまとめたものになります。4ページをお願いします。

まず、現計画案でございます。設楽ダム建設により、愛知県さんより確認した必要な開発量を確保する案でございます。現計画案につきましては、40年近くの歳月を費やした水没住民の苦渋の決断があり、早期に完成してほしいという意見、ダムをつくる必要はない等、さまざまな意見をいただいております。

5ページをお願いします。ここからがグループ別の説明となります。

グループ1は池を設置する案です。

目標、実現性については、すべて現時点においては不適當な案ではございません。

パブリックコメントにていただいた新たな対策案のナンバー17の地下貯留施設につきましては、現計画に比べて極めて高いコストになるため、棄却させていただいております。

ナンバー1と6の両案に対して、優良農地の潰廃、減少などにつながり、地域環境や農村振興への影響が大きいのではないか、現ため池の再開発を行えばよい等、さまざまな意見をいただいております。

両案ともに目標に大きな差はなく、総概算コストが最も安価で、優良農地を避けての設置が見込めるナンバー6のため池を、このグループから抽出しております。

次ページ以降のグループも同様でございますが、これまでいただいた意見及び今後実施予定の利水参画者等への意見聴取も踏まえ、できる限り詳細な検討を実施してまいります。

6ページをお願いします。

グループ2でございます。ダム再開発を実施する案でございます。

目標、コスト、実現性については課題はあるものの、現時点では不適當な案はございません。

本グループの対策案については、安定的な水の供給、また、工事中の既設ダムの機能の維持から適當ではない、優良農地の潰廃、減少などにつながり、地域環境や農村振興への影響が大きいのではないか等、さまざまな意見をいただいております。

各案ともに、目標、コストに差がないため、パブリックコメントにも意見をいただいております、ため池は河道外貯留施設に比べて優良農地を避けた地点での建設が見込めると

いうことから、ナンバー12のダム再開発（宇連ダム）プラスため池案を、このグループから抽出しております。

7ページをお願いします。

グループ3でございます。他の水系から導水する案でございます。

目標、コスト、実現性については、効果が関係者との調整に大きく依存するため不明、不確定と課題はあるものの、現時点では不適切な案とまでは言えません。

ナンバー3、4の両案につきまして、関係機関との交渉等が困難であり、河川環境等の悪化も懸念される等、さまざまなご意見をいただいております。

両案と、パブリックコメントにていただいた新たな対策案のナンバー18の木曾川からの導水、ナンバー19の天竜川、矢作川からの導水においても、現状の利水安全度が低く、効果が関係者との調整に大きく依存し、現時点で評価することは困難でございますが、天竜川においては既に導水実績がありますので、ナンバー3、水系間導水については天竜川というのを抽出しております。

8ページをお願いします。

グループ4の地下水を採取する案でございます。

目標、コスト、実現性については課題はあるものの、現時点では不適切な案とまでは言えません。

本案に対しては、地盤沈下のおそれ、地下水の塩水化等の問題がある等、ご意見をいただいております。

総概算コストは不確定であり、効果が関係者との調整に大きく依存いたしますが、本案は一般的な利水対策手法であることから抽出をしております。

9ページをお願いします。

グループ5の海水淡水化施設を設置する案でございます。

目標、コスト、実現性については課題はあるものの、現時点では不適切な案とは言えません。

本グループの対策案について、コストがかかり過ぎて理解が得られないのではないかとの意見をいただいております。

本グループのすべての案が現計画に比べて極めて高いコストだということで、本グループからの抽出はしてございません。

10ページをお願いします。

グループ6の既得水利の合理化、転用を実施する案でございます。

目標、コスト、実現性については課題はあるものの、現時点では不適当な案とまでは言えません。

本案に対して、現実性に乏しく、歴史的経緯を考えると調整が困難等のご意見をいただいております。

総概算コストは不確定であり、効果が関係者との調整に大きく依存いたしますが、本案は地下水の取水と同様、一般的な利水対策手法であることから抽出しております。

11ページをご覧ください。

今まで説明させていただいた各グループの結果をまとめた表でございます。A3判であると思いますが、棄却をした対策案は、オレンジ色の棄却と書いてあるナンバー7、14から17までの5案でございます。抽出をした対策案は、現計画案と、各グループから表中の二重丸で示しておりますナンバー3、5、6、8、12の計6案を抽出しております。

今後、この抽出した6案につきまして、これまでにいただいたご意見及び今後実施予定の利水参画者等への意見聴取も踏まえ、できる限り詳細な検討を実施する予定でございます。

12ページをご覧ください。A3判でございます。

ただいまご説明しました6案の対策案につきまして、今後この表に基づいて、目標、コスト、実現性など6項目について詳細な検討を行い、評価軸ごとに総合的な評価を実施します。

13ページをご覧ください。

続きまして、流水の正常な機能の維持対策案の概略評価の考え方でございます。棄却の方針については、利水と同様でございます。抽出の方針ですが、前回の検討の場でも説明させていただきましたが、送水コスト等を考慮しますと現実性がない海水淡水化については、今回、評価の対象外としております。その他のグループにつきましては、利水と同様の考え方で整理しておりますので、説明は割愛させていただきます。

14ページをご覧ください。

このページは、利水と同様、各グループの一覧表でございます。ナンバー17から20がパブリックコメントでいただいた新たな対策案でございます。

次のページの15ページからが、流水の正常な機能の維持対策案の棄却、抽出をまとめ

たものになります。

15ページをご覧ください。

まずは、現計画案でございます。コスト以外の内容につきましては、利水と同様ですので割愛させていただきます。

16ページをお願いします。

グループ1、池を設置する案でございます。ナンバー1、6、17の対策案につきましては、現計画に比べて極めて高いコストということで棄却しました。ナンバー20につきましては、整備計画で目標としている必要量を確保できないため棄却します。結果としまして、本グループからの抽出はございません。

17ページをご覧ください。

グループ2、ダム再開発を実施する案でございます。こちらはすべての案が現計画に比べ極めて高いコストということで、本グループからの抽出はございません。

次の18ページのグループ3、19ページのグループ4、20ページのグループ5につきましては、利水と規模は違いますが、抽出の考え方は同じでございますので、説明を割愛させていただきます。

21ページをご覧ください。

流水の正常な機能の維持対策案の各グループの結果をまとめた表でございます。棄却をした対策案は、オレンジ色で棄却と書いてあるナンバー1、2、6、それから9から17、20の10案でございます。抽出をした対策案としまして、現計画案と、各グループから表中の二重丸で示しておりますナンバー3、5、8の計4案を抽出しております。

今後、この抽出した4案につきまして、これまでにいただいたご意見、今後実施予定の利水参画者等への意見聴取も踏まえ、できる限り詳細な検討を実施する予定でございます。

22ページをご覧ください、A3判の表になってございますが、ただいまご説明しました4案の対策案につきまして、今後、この表に基づいて、目標、コスト、実現性など6項目について詳細な検討を行い、評価軸ごとに総合的な評価を実施します。

対策案の抽出については以上でございます。

【進行役（河川部長）】 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

【愛知県副知事（永田清）】 まず、治水対策案でございますけれども、二重丸で抽出された案につきましては、工期が不確定となっているものが多いかなというふうに思います。

そして、また、利水、流水維持の対策案につきましても、工期に加えてコストが不確定というふうになっているのが多く見受けられるということでございます。ですから、今後の評価軸に基づく評価に当たっては、工期を明確にした上で適切に評価していただきたいということでございます。

さらに、総概算コストにつきましても、コストを最も重視するという国の方針もありますので、利水とか流水維持対策案の総概算コストを早急に明らかにしていただきたいというふうに思います。

それと同時に、ダム事業の検証に係る実施要領に沿って、そのコストの中の建設費とか維持管理費、それから、ダム中止に伴って発生する費用等の具体的な内訳についてもお示しをしていただきたいというふうに思います。

それから、また、利水対策案の中に地下水取水案などが含まれているわけでございますけれども、評価軸の中で持続性というものがございしますが、やはり将来にわたり安定的に水の確保、供給ができるかといった観点も大変重要でございますので、評価に当たりましてはそういう持続性という点もしっかり十分考慮していただきたいというふうに思います。

以上でございます。

【進行役（河川部長）】 事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 まず、1点目の工期、それから総概算コストに関するご指摘でございますけれども、今後の目的別評価という詳細な評価を行っていく段階では、評価軸におけます安全度について、段階的にどのように安全度が確保されるかについて評価していくことになっております。なお、総合的な評価である目的別の総合評価というものにつきましては、段階的に安全度がどのように確保できるかというようなことを示すことになっているということございまして、我々としても工期をできるだけ明確にした上で評価をしていきたいと考えておるところでございます。

また、総概算コスト、こちらにつきましても、今後の評価の中の評価軸のコストという項目におきまして、完成までに要する費用、それから維持管理費に要する費用、それからその他の費用といった各項目について、可能な限り明確にして評価をしていきたいと考えている次第でございます。

【進行役（河川部長）】 よろしいでしょうか。

【事務局】 利水のほうを、もう少し。

【事務局】 利水のほうでございますけど、今後、利水参画者等の皆様からの意見聴取、

それから、今後できるだけ詳細に検討を行いまして、コストとか、将来にわたって持続が可能かどうか、評価軸ごとに検討させていただきたいと思います。

また、地下水への影響でございますけど、評価軸の中には環境への影響についても検討することになっておりますので、今後、皆様のご意見を踏まえまして評価、検討させていただきたいというふうに思っております。よろしく申し上げます。

【進行役（河川部長）】 よろしゅうございますか。

ほかにご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

【豊橋市長（佐原光一）】 基本的なことを教えてください。

このマトリックスは全部組み合わせが可能なのでしょうか。例えば、極端な話、治水は河道を掘りましょう、利水はダムの水を使いましょう、流水の確保は天竜川からもらいましょうというようなことも可能だという想定で、今後、解析をされるのでしょうか。

【事務局】 ちょっとご説明します。

まず、治水、利水、流水の正常な機能の維持という3つの目的別に、まずは、最終的に1つの案に評価をして決めるというようなステップがありまして、その後、それぞれの目的ごとの対策案というのを踏まえて、最後はその3つの目的で一番いい案というのを1つに絞り込むという、そういう流れがあるということで、お手元に、済みません、構成員の方々だけにお配りしていますクリアファイルの参考資料というのを見ていただきますと、1というところの、ダム事業の検証に係る検討に関する再評価の実施要領細目というところの、①のところの32ページ、これを見ていただけますでしょうか。

総合的な評価の考え方というところで、iiのところの検証対象ダムの総合的な評価というところをちょっと読ませていただきますが、目的別の総合評価、要は治水、利水、流水の正常な機能の維持という3つの目的別の総合評価を行った後、各目的別の検討を踏まえて、検証の対象とするダム事業に関する総合的な評価を行うということで、この次のところの、目的別の総合評価の結果がすべての目的で一致しない場合につきましては、各目的それぞれの評価結果とか、それぞれの評価結果がほかの目的に与える影響の有無、程度等について、検証対象ダムですとか流域の実情等に応じて、総合的に勘案して評価するといったような文言がございまして、済みません、具体的にこちらをどういうふうに解釈してやっていくかというのはまだこれから検討していくところですが、こういうことで決まっているというところでご紹介させていただいております。

【豊橋市長（佐原光一）】 そうしますと、例えばダムの数字だけ見ていると、治水のと

ころは1,200億って確か書いてあり、そして、利水のところは500億と書いてあって、利水相当分だけを実行するとしたら500億とか、どういうふうに数字を見たらいいのか教えていただけますか。

【事務局】 それぞれの事業費の位置づけということのご質問かと思いますが、例えば治水対策案につきましては、整備計画の目標を達成するために、現計画でいえば、ダムの残事業費の治水分のお金と、あと、河川改修のお金というのが入っています。それから、利水とか流水の正常な機能の維持についても同じような考え方で、整備計画の目標を達成するための残事業のお金ということで、そういう内容のお金になっているということでございます。

【豊橋市長（佐原光一）】 そうしますと、例えば、ダム事業全体の額のうちこの部分を利水で計算しましたよとか、そういうことじゃないわけですね。利水の部分がこれだけで、治水の部分がこれだけで、全部を足すと全体になるとか、そういうことではないんですよね。

【事務局】 そうです。まずは3つの目的別ということでやっております。

【豊橋市長（佐原光一）】 もう一点お聞きします。

ため池の話とかいろいろ出てきた中で、ほかでもちょっといろいろ気になって、例えば、今回、地震（東日本大震災）があった中で、ため池が1カ所、崩壊しましたよね。それで、亡くなられた方が確かいらしゃった。あまり大きなニュースにはなりませんでしたが、私たちがこれを考えていくときも、例えば堤防を高くしたらいいですよとか、地震や何かがあったときの危険度とかを考慮すべきであると思いますが、技術基準が変わるのかどうか、要素として考慮すべき技術項目は何かございますか。

【事務局】 今、河川につくるような河川工作物の場合ですと、河川管理施設等構造令という一定の耐震の基準をもってつくることになっておりまして、今回の地震を受けて、今、先月の27日に中央防災会議で、いろいろ解析が進められる、この秋までにいろいろなそういったものが議論されるというような情報は聞いておりますけれども、具体的に今これで何か変わると、基準を変えとかいう話は聞いておりません。

ただ、今回の地震もそうですが、河川管理施設等の構造令に沿ってつくられた、例えばダムとか、そういったものにつきましては、軽微な被害はあったようでございますが、大きな被害はなかったというふうに報告されておりますので、今の震度法による基準で設計されておりますけれども、兵庫県の地震のときもそうでしたけど、大きな被害は起きてい

ません。

【豊橋市長（佐原光一）】 見直すことはないということですね。

【事務局】 はい。ため池はちょっと違う基準になりますので、私どもからはちょっと答えづらいところがございますが。

【新城市長（穂積亮次）】 個別のことでよろしいですか。代替案の中で、天竜水系からの導水の利用というのが一部採択をされているんですが、天竜水系からの導水はもう既にやられている事業だと思うんですね。それによるさまざまな影響というのは、私ども新城市のダムの直下流、あるいは導水路等の中でいろいろ取りざたされているところであります。特に、河川環境に与える影響、水質への影響、それに伴う漁業権の問題などが既に発生しています。

これをさらに検討される場合に、既に行われていることに対する影響評価を加えてやられていくのか、それとも、単なる技術的な、あるいは流量の確保とか、そういう面だけでやられていかれるのか、その点についてお聞きをしたいと思います。

【事務局】 今、抽出されている案につきまして、詳細にこれから検討するというところでございますので、今、市長のほうからお話がありましたようなことも、当然、考慮していかなければいけない。7つの評価項目の中には環境の部分もございます。

それから、この対策案につきまして、後で、次の項目で実はご説明しますが、関係自治体とか関係者の方の意見をお聞きする場もございますので、そこら辺はしっかりと聴取しながら、詳細に検討していきたいというふうに思っております。

【新城市長（穂積亮次）】 加えて、既存ダムの再開発の問題も同じですが、同じように理解してよろしいですか。

【事務局】 結構でございます。

【進行役（河川部長）】 今回のご提示した資料は、まだ関係機関、関係者等の意見を伺っていない、事務局の中での整理でございますので、本日のこの検討の場の終了後に、関係者のご意見を伺いながら、今、市長さんのほうからのいろんなご懸念に対しても対応していこうと思っております。

ほかにご意見、ご質問等がございましたら。

それでは、また後ほど全体を通してご意見を賜ろうと思っておりますので。

8番目の議事でございます。利水、流水の正常な機能の維持対策案に対する意見聴取について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、資料―7をご覧ください。

ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目に基づき、本日ご説明させていただきました、利水であれば6案、流水の正常な機能の維持であれば4案について、利水参画者、関係河川使用者等に提示しまして、意見聴取を行う予定でございます。

1 ページをご覧ください。

有識者会議の資料の抜粋でございます。真ん中に青の矢印で示した箇所が、今回の検討の場でご説明させていただいた箇所になります。その下の赤枠で囲ったところが、今回の意見聴取ということで、利水、流水の正常な機能の維持で抽出した対策案に対して、利水参画者、河川使用者、関係自治体からご意見をいただく予定でございます。

その後、評価軸ごとに検討を行いまして、総合的に検討する予定となっております。

2 ページをご覧ください。

この資料にて、先ほどご説明させていただきました利水参画者等への意見聴取の依頼をする予定でございます。意見の聴取期間は2週間を予定しております。ただし、意見聴取の期間は2週間とさせていただいておりますが、調整等の理由で難しいなどございましたら、私どもの河川環境課までご連絡いただければと思います。

3 ページをご覧ください。

意見聴取をお願いする機関といたしまして、今後の治水対策のあり方に関する有識者会議中間取りまとめに基づき、資料にあります利水参画者、関係河川使用者、関係地方公共団体といたしております。ご意見は、利水参画者等の皆様に該当する、例えば、静岡県、東栄町さんにつきましては、該当する天竜川から導水する対策案につきましてご意見をいただく予定でございます。

詳細等につきましてご不明な点がございましたら、私ども河川環境課のほうまで問い合わせさせていただければなというふうに思っております。

以上で、意見聴取についての説明を終わらせていただきます。よろしく申し上げます。

【進行役（河川部長）】 それでは、資料の説明をすべて終了させていただきましたが、全体を通しまして、ご意見、ご質問等をいただければと思います。今後の検討を進めるに当たりまして、どのようなことでも結構でございますので、よろしくお願いいたします。

【新城市長（穂積亮次）】 私、これまで前2回を事情で欠席しておりまして、最初に振り出しのことに戻るようなことで申し訳ないんですが、1つだけ確認をしたいんですが、国の検証の際の、いわゆるできるだけダムに頼らない治水という考え方そのものなんです

が、その場合の代替案というのは、今定めている治水、利水の目標値を達成するための代替案という意味であって、その目標そのものが不要であるとか過大であるとかという考えは、そもそも前提に入っていないと理解してよろしいんですか。

【事務局】 お答えいたします。ご指摘のとおりでございます。そのような考えで。

【新城市長（穂積亮次）】 わかりました。

【田原市長（鈴木克幸）】 今、最後の意見聴取、これは、それぞれ抽出した案に対して意見を出すと、だから、6案とか、4案とか、全部に対して意見を出すと、そういう意味ですか。治水、利水、それぞれ抽出した案がございますよね。

【事務局】 治水はございません。利水と流水の正常な機能の維持対策案についてのご意見をいただくというふうに。

【田原市長（鈴木克幸）】 済みません。これは2つだけですね。

【進行役（河川部長）】 ほかにご意見はございますか。

【愛知県副知事（永田清）】 せっかくの機会ですので、こうやって検証はしっかりやっていたきたいというふうに思うんですけれども、それと同時に、やはり、水没者等で移転を余儀なくされる方、こういう方々が安心して、生活再建、これに取り組めるように、用地補償等の生活再建対策の推進、これについてはぜひとも国のほうもしっかりご配慮して、来年度予算等の関係もありますので、そういう点はぜひともお願いしたいというふうに思います。

【事務局】 生活再建者の皆様には多大な心配をおかけしている状況であることは深く認識しております。我々としましても、検証をできる限り速やかに進めたいというふうに考えておりますので、ご理解とご協力を引き続きお願いしたいというふうに思います。

【設楽町長（横山光明）】 今、永田副知事さんが申し上げていただきましたんですが、設楽ダム計画は、ご承知のように、平成21年10月から、新たな段階には入らないというふうにされてから、ちょうど1年と7カ月ほどたったわけでございますけれども、この間におきまして、水没関係住民の方々の生活ということは、当然、その場で依然として続いておるわけです。

そして、こうした状況下の中であって、生活の先行きが見えてこない。今回、こうして検証作業はもちろん進めていくということで、協力もして、理解もしておるところなんですけど、一方では、高齢化が進んでおるといようなことで、こうして日常の生活をしていく中で、ほんとうにこれからどうなってしまうのかなという、こういった思いから、非

常に不安視をされておる状況であります。現に、既にずっと、ダム対策というか、対応をしてこられた方の中には、亡くなられてしまった方ですとか、健康状態がすぐれずに病院へ入院をしなければならんという事例も出てきておりまして、こうした中で移転をしていく手続を進めていくような現状があるわけです。

一方で、今回発生した大震災ということで、これに見舞われた地域の方々への対応等は、当然、目を向けて、力を注いでいかなければならないということはもちろん重要でありまして、承知をしているところではありますけれども、ただいまも申し上げましたとおり、ダム計画地域の住民は毎日の生活に不安視をしているという方が多くみえるという、こういった事実があります。

ぜひ早期に検証作業を進めていただいて、早くこの判定を出していただくことをお願いしたいと思います。損失補償ですとか生活再建、さらに地域整備を進めていくために、建設に向けて、平成24年度予算に反映していただくように、ぜひとも要望をしたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

【事務局】 今いただきましたご意見につきましては十分重く感じておりまして、来年度の予算要求もこれから始まるわけでございますけれども、いただきました今のご意見等はしっかり本省のほうにも伝えてまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

【田原市長（鈴木克幸）】 私のほうは利水の関係が中心でございますけれども、やはり今回の震災を見ても、想定外とか、いろんな話がございます。今の評価を見ておりますと、コスト、あるいは事業の内容、これはこれでいいんですけれども、やはり設楽ダム全体、総合的な治水、利水、そして維持流量の確保という全体のダムでございますので、そういう面からいきますと、ただこれだけの評価だけでいいのかという疑問がございます。

と申しますのは、私ども農業をやっている立場からいきますと、例えば施設を使った農産物の場合は、水がとまった場合には1日2日で壊滅的な打撃を受けてしまう。そして、露地でも、1週間から10日間水が断水すれば、また壊滅的な被害を農産物が受ける。

そういったようなことを、今、農家の方々は非常に心配しておるわけでございますので、そういった面で、今、この評価軸、評価の考え方を見た中で、そういった事業サイドだけではなくて、利用サイドの不安感、そういったものもやはり考慮に入れていかないと、誤った選択をするのではないかなど。将来、想定外だったということと言われぬような形で、その辺のところをきちっと押さえて、やはりダムの目的は何だということもしっか

りと、また私どもも意見を言わせていただきますけれども、技術的な、数字的なものだけではなくて、その背景にあることも、何といたっても生産性の日本一高い農業を展開している地域でございますので、その辺をぜひまた頭に置いていただければというふうに思います。

【事務局】 今いただきましたご意見等、また今後の詳細な検討の中では十分に参考にさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【進行役（河川部長）】 ほかにご意見がございましたら。よろしゅうございますか。

それでは、以上で8までの議事を終了させていただきます。

では、最後の議事になりますが、9、その他につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 今後の予定を少しご紹介させていただきます。

本日の皆様のご意見を踏まえまして、検討主体であります我々のほうで目的別の対策案の評価を行いまして、皆様にお示しできる段階となりましたら次回の検討の場を開催したいというふうに考えております。

明確な時期につきましては本時点ではちょっとお伝えすることができないんですけれども、今後、関係の県、市町の皆様方と日程調整を行いまして、第4回の検討の場を開催させていただきたいと思いますので、引き続きご協力のほうをお願いしたいと思います。

以上です。

【進行役（河川部長）】 今後、できるだけ速やかに、この作業を事務局のほうでも進めながら、次回の第4回の日程の調整もさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

以上で、本日予定しておりました議事すべてを終了させていただきます。円滑な議事の運営につきましてご協力をいただきまして、ありがとうございました。

では、事務局のほう、お願いします。

【事務局】 ありがとうございました。順調に会議を進めることができました。本当にありがとうございました。

今日の資料につきましては、先ほどもちょっとご説明がありましたように、ホームページで今日中に何とかアップする、もうアップしているということでございます。パブコメで、傍聴者の方には全部が配られておりませんが、またホームページを見ていただければというふうに思っております。

大変お忙しい中ご参加いただきましてありがとうございました。本日はこれで終了したいと、ありがとうございました。

— 了 —